

高校までの保健の授業に対する大学生の意識に関する一考察

松崎 孝治 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中藪 伸二

キーワード：保健授業 楽しさ 重要 印象

1、緒言

保健教育は学校教育課程で重要な位置にあり、2000年の学習指導要領改訂以降重視されている「生きる力」の育成基盤である「たくましく生きるための健康や体力」を育むための重要な役割を担っている。しかし、保健体育として考えてみると、保健は軽視されているように考えられる。また、体育の授業と保健の授業では、楽しさなどの面でも生徒が受ける印象は違い、保健の授業は、学ばせたい内容と教材を明確にし、構成しなければ、授業は展開せず、生徒たちからの反応も芳しくない。

そこで、本研究では、高校までの保健授業を受けてきた大学生の意識を明確にし、どのような授業を行うことにより、卒業後も保健授業が楽しく印象的で日常生活に活かせるかを研究することを目的とする。

2、研究方法

本学の学生135名を対象とした無記名自記式の質問紙調査を2010年4月に実施。本学の学生87名を対象とした無記名・自記式の質問紙調査を2011年4月に実施。上記2つの調査結果を分析した。

3、結果と考察

質問紙調査結果からは楽しいという答えは少なく、半分以上の学生は高校までの保

健授業に楽しいと感じていない結果がわかった。その背景には、教科書重視の一方的な授業が行われている傾向が考えられる。

次に、保健授業が重要であるかの調査では、重要であるという肯定的な意見がほとんどの割合であった。

また、印象に残っている高校までの保健の授業があるかについては、あるという答えは3割程度で約7割の学生は印象に残っていないという結果であった。一方、実験や興味深い教材を用いた授業は、学生の印象として残っているようである。

4、まとめ

保健の授業が楽しいという意見は少ないが、重要であるという大学生の意識がわかった。また、質問紙調査の意見から保健授業では、良い雰囲気をつくること、勢いがあること、そのためにはよい教材を作ること、教具による演示があること、実験があること、グループ活動・体験・調査・話し合いがあること、まとめの工夫があることが大切であると考えられる。

参考文献

島根三佳 (2000) 高等学校科目「保健」に関する一考察 大学新入生の意識調査からの検討. 川崎医療福祉学会誌 10(1) : 137-145.